

令和5年度 奈良市立帯解こども園 研究実践概要

園長名 岡本 和美
全園児数 100名

1. 研究主題 「やりたい」「やってみたい」の思いの中の子どもの心
～心の動きや行動の変化から考える環境構成と援助の在り方～

2. 研究年度 3年度

3. 研究主題設定理由

子どもの「心の動き」や「行動の変化」について話し合いを重ねることで乳児と幼児の思いの表出方法や見取り方の違いが浮き彫りとなった。乳幼児の職員間で発達に応じた子の捉え方を模索し、心の動きや変容を多面的に捉え、PDCA サイクルを循環させるために、事例研修だけでなく園内公開保育を研究の場とした。また、職員間で話し合う機会を増やし、子ども理解を深めることで、発達段階に沿った環境構成や援助の在り方を具体的に計画し実践していくことにした。

4. 具体的な研究内容

①研究のねらい

子どもの「やりたい」「やってみたい」を実現するための子どもの心の動きに基づいた環境構成の援助やあり方について考える。

②研究の重点

- ・研究主題について職員の共通理解を図り、具体的な取り組みを探る。
- ・子どもの姿や行動の変化にかかわる環境構成や保育者の援助の在り方を探り、工夫していく。
- ・前年度の課題を踏まえ研究を進めるにあたり、乳児と幼児の発達の違いから保育者の関わり合いの違いに焦点を向けた。学年を絞ることで「心の動き」「行動の変化」を視覚化し、発達段階への理解を促すとともに、研究を深めていく。

③活動の方法

- ・主題に基づいた実践事例の検討会、その課題を活かした園内公開保育とカンファレンス、さらにその課題を活かした実践事例の検討会と1年通してPDCAサイクルの循環を意識し、させ、継続的な実践をする。

- ・各実践事例については、**幼児**では心が動いたきっかけ、**心が動いた瞬間**、**心の動き**、**乳児**では**意図的に用意した環境と関わって心が動いたきっかけ**、**心が動いた瞬間**、**保育者の気持ち**とすることで、発達に応じた教育・保育が実践される中でよりこの研究が日々の教育・保育に活かされ、発達期に沿った研究が進められるよう表記方法を改善し、分析・検討した。

実践事例（乳児）

事例1 「もっかい もっかい」

1歳児（4月）

保育者の用意した環境（心が動くきっかけ）

砂場で、保育者がつくった型を手やスコップで崩したり、型抜きをしようとしたりする姿があった。そこで、砂場の乾いた砂とは別に、型抜きがしやすいように水で湿らせた砂をタライに入れて用意した。

A児はタライの砂をカップに入れるたびにスコップで表面を軽く叩く仕草をしていた。

保育者が机の上に型をつくると、その様子を見ていた。この前、保育者が型抜きしていたところを見ていたのかな...

A児も自分で砂を入れたカップをひっくり返したが崩れる。保育者がもう一度型を作ろうとすると、保育者のカップに手を伸ばした。私がやりたい（意欲） 保育者は「どうぞ。できるかな？」と、砂の入ったカップを手渡す。A児はできた型を見て嬉しそうに笑い、保育者が「できたできた！」と共感すると、今度はスコップで型を崩して「お〜！」と大きな声を出す。形がなくなった！（面白い） 保育者がもう一度カップに砂を入れ始めると、その様子をじっと見つめ、早く崩したい（期待・意欲） 保育者が型を抜くと、「あー！」と大きな声を出しながら、スコップで型を崩す。崩れた！楽しい！（興奮） 「あー！崩れたねー！」と一緒に笑うと、その後も「あー！」と声を出しながら次々に崩していった。楽しい！（興奮） 何度も繰り返し遊ぶと、A児はスコップを置いて他の遊びへ向かって行った。あー楽しかった（満足）

〈考察〉

「型抜き」や「型崩しを楽しむ」という子どもの姿から、その遊びを繰り返し楽しんでほしいと目的をもち、型が抜きやすい湿った砂を用意したことが「やりたい」の気持ちを芽生えさせるきっかけになった。また、子ども達に経験して欲しい遊びが十分にできる環境を予め用意していたことで、対保育者との関わりを持つことで遊びの満足感を高められる月齢のA児とじっくりかかわる時間を確保でき、「もっかい」という要求にも応え続けられたことが満足感へつながったと考える。

園内公開保育 「感触あそび（水・絵の具等）」

1歳児（8月）

〈考察〉

子どもの発達や興味に合わせて用意した環境の中でも、予想とは異なるところに興味をもったり、楽しみ方をしたりすることがある。しかし、その姿を見極め、環境を再構築する柔軟さをもつことで子どもの遊びは持続し、繰り返し遊びを楽しむ姿に繋がる。また、乳児にとって物的環境と同等に人的環境（保育者）があり、保育者が寄り添ったり見守ったりすることで、安心して遊ぶことができたり、遊びや興味をもっていることへタイミングよく関わりをもつことで遊びが持続したり繰り返し楽しむ要因になる。この「繰り返し遊びを楽しむ姿」を生み出す環境を整えることが乳児期に必要な力を育むことへ繋がっていくと考える。

事例2（公開保育を受けて） 「かいだん かんせ〜い！」

1歳児（12月）

保育者が用意した環境と子どもの姿

春、新入園児のA児が安心して過ごせるよう車の乗り物を段ボールで作った。中に入っていると少しずつ安心し、次第に車のひもを引いて遊ぶようになる。

夏、保育室にビニールテープで道をつくり、車を引いて遊ぶことを楽しめる環境を整えると、道に沿って車を引っ張ることを楽しんでいった。

秋、車の中に、積み木や電車の玩具、絵本などをたくさん乗せて引っ張る姿が見られるようになった。荷物をたくさん乗せたいという気持ちを満たせるように牛乳パックに新聞紙を詰めた「荷物」に見立てられる素材を用意した。

A児は、車に目一杯の荷物乗せると、車のひもを引き運び始める。しかし狭いところを通ると荷物が落ちてしまう。「落ちましたよー」と声をかけると、「落ちちゃった」と言いながら拾い、今度は慎重に車を引いていた。次は車に載っていた荷物を並べ始める。壁から並べ、全て並べると「かせーい」と手を叩いて喜んだ。保育者が「何つくったの?」と聞くと、「階段」と言って、その上を歩き始めた。少し不安定だったため、保育者がさりげなく安定して上を歩けるように補強すると、A児は端まで歩くことができ、「ゴール」と言って喜ぶ。それを見ていたB児は、

「何しているのかな。やってみたいな(興味・期待)」

「何してんの?電車の線路?」と言いながらA児の後を歩いていく。A・B児が楽しそうに遊んでいる姿を見て、C児は、「Cも!Cも!」と言って同じように歩く。月齢の低いC児は保育者が手を差し出すと握り、端まで歩いた。保育者が「ゴール!」と言ってC児の目を見てほほ笑むと、C児は「もっかい」と言って初めの場所に戻った。その後3人は何度も繰り返し楽しんでいった。

荷物を乗せて運ぶぞ!(意欲、わくわく)

新しい遊びを始めた!見守ってみよう。

できた!全部並べられた!(嬉しい)

楽しい!もっとしたい(興奮)

〈考察〉
 安心できる玩具を活用しながら子どもの興味・成長に合わせた環境を再構築していくことで、自ら考え新しい遊びに移行することができた。また、見立て遊びの始まった時期に見立てやすい素材を用意したことで、「荷物」として運ぶだけでなく、「階段」とイメージを広げて楽しむ姿に繋がった。また十分な量を用意したことで他児も興味をもち、この時期に経験してほしい「並行遊び」へとも繋がった。

実践事例 (幼児)

事例1 「縄跳びを使ってみるのはどう?」 4歳児(4月)
 (ねらい) 様々な用具を使い、友達や保育者と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。

園庭で、巧技台や平均台などを使ってサーキット遊びをしている。ミニコーンやフラフープ、S棒などの子ども達が扱いやすい用具は事前にまとめて置いておくことで、子ども達が自分でコースを組み立てられるようにしていた。

4名の子ども達がそれぞれの思いをもってコースをつくったり、運動用具で遊んだりしていた。保育者が用意しておいた運動用具を使い切りそうになり、A児は体育倉庫に視線を移した。A児から、「縄跳びを使ってみるのはどう?」という提案があり、短縄を使うことになった。

いいものがあつた!あれ使ってみたいな(興味)(わくわく)(期待) 短縄を手にとったA児は、カラーコーンに巻き付けようとしたがうまくできない。

あれ?うまくできないなあ(困惑)

ここに引っ掛けたらどうなるだろう?(期待)

保育者が巧技台の位置をずらしてフェンスに近付いたり、サッカーゴールやベンチを近くに置いたりすると、A児は短縄でフェンスと巧技台を繋げた。

今度はうまくできたぞ(嬉しい) 楽しそうなことしているな(興味)もっとやりたい!(意欲)(ワクワク)

そのA児の様子を見て、周りの子ども達も、工夫しながら短縄を引っ掛け始めた。短縄が数本張ったタイミングで、「これでどんなコースができるかな?」と保育者が問いかけた。「なんだか蜘蛛の巣みたい!」と答えたA児の言葉を聞き、「ほんまや!蜘蛛の巣みたい!」

縄がくもの巣に見える(発見) 本当だ!(共感)(気付き) 「もっと難しいコースにしよ!」と周りの子ども達も答えた。

やってみたい!(意欲)うまく通れるかな?(ワクワク) 短縄を引っ掛けることが楽しい子どもは、すでにある短縄に絡ませながら更に張り巡らせていく。

張り巡らしたい!(期待)

短縄が絡み合う様子を見た2名の子どもは、「蜘蛛の巣コースやりたい!」と、そのコースに挑戦し始めた。

どんな風に引っ掛けようかな(ワクワク)

〈考察〉
 巧技台や平均台、ミニコーンやフラフープ、S棒などを扱いやすい場所に置いておくことで、子ども自らコースを組み立てる姿があつた。子どもの気づきを認めることで、短縄も一つの道具として活用しコースづくりを楽しんだ。「蜘蛛の巣」というイメージをもつことで、友達と思いを共有し、一緒に蜘蛛の巣コースをつくって遊ぶことに繋がった。

園内公開保育 「縄遊び（共通経験）」

4歳児（11月）

〈考察〉

縄遊びを使った一斉保育では、保育の進め方や発達段階における道具の扱い方、導入の仕方など、カンファレンスの中で発達に沿った方法を学んだ。今回は「縄遊び」を一つの道具として使うことで、子ども達の「跳べない」という意識を下げた。そして「もっとやってみたい」という意欲の向上に繋げ、「短縄」として使ったときに「楽しむ」ことができる土台づくりをした。

事例2 「作戦会議しよ！」

4歳児（12月）

（ねらい）友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ。

互いの思いを伝え合いながら遊ぼうとする。

子ども達の提案で、しっぽ取りから「ろうや鬼ごっこ」という遊びに発展した。鬼と逃げる子どもに分かれ、捕まったらサッカーゴールの「ろうや」に入り、仲間からタッチで助けてもらおうと復活できるルールになっている。

この日は10人で鬼ごっこをしており、鬼が4人（A児・B児・C児・保育者）で、逃げる人が6人いた。ゲームが始まり、鬼は逃げる人を何人もタッチするが次々と復活して逃げてしまう。その状況を見て、A児「先生～、めっちゃ逃げてしまう～」と保育者に伝えに来る。

うまくいかないなあ、せつかく捕まえたのに（困り感）（残念）

保育者「どうしたらいいのかな？」と問いかけるが、A児「う～ん…」とアイデアが出ない。保育者は「ちょっと作戦会議しよう」と鬼の子ども達を全員集めてA児の思いを伝えると、B児「追いかけただけやったらあかんねん」、保育者「じゃあどうしたらいいの？」、C児「ろうやの前で逃げへんように見とこう」、A児「分かった！」とやりとりを交わし、また鬼ごっこを再開した。

そうやればいいのか！やってみよう！（期待）（ワクワク）（解決）

数分後、A児とB児は「作戦会議しよ！」と言い、牢屋の前で顔を寄せ合って話している。

友達と一緒に協力しよう（ヒラメキ）（ワクワク）

A児「僕が追いかけてくるから、Bちゃんはここで見張ってて！」、B児「分かった！」と言い二人は散らばった。その後、A児が捕まえた友達を連れて牢屋に戻ってきた。A児「Bちゃん！○○ちゃんのこと捕まえたで！」、B児「すごいやん！ありがとう！」、A児「しっかり見張っててな！また行ってくる！」、B児「分かった！」とやりとりを交わし、またそれぞれ散らばった。

うまくいったぞ！もう一回してみよう！（嬉しい）（満足感）

〈考察〉

・しっぽとりでは、友達との関わりが「逃げる」「追いかける」というだけになっていたが、保育者として友達への興味を広げてほしいという思いがあった。ろうや鬼ごっこを繰り返し遊ぶ中で、チーム内の友達と協力する姿が見られるようになってきた。

・今までは友達に対する指摘が多かったが、鬼ごっこを通して友達を「仲間」として意識し、力を合わせる姿の芽生えが出てきた。この姿から、友達を思いやる、優しくする、助けるなどの姿が増えるように繋げていきたい。

5. 研究の成果

乳児では自分の思いや考えを言葉で伝えることが未熟な分、保育者が子ども一人一人の遊ぶ姿を観察し、発達を見極めた環境構成が大切である。また、乳児保育では複数担任という保育態勢も強みにし、多角的に子どもの姿を見取り推測することができる。子どもが「楽しいな」と感じている事を見抜き、経験して欲しい環境を柔軟に再構成せることが子どもの遊びを継続させる大きな要因であると実感した。

幼児では、子どもの言葉や思いから、何に興味をもっているか、思いの中心はどこにあるのか探ってきた。心が動くとき「やりたい」「やってみたい」と、行動の変化が生まれる。保育者はその行動や声の変化に気付くことのできる力と、日々の反省や振り返り、客観的に見る力が不可欠である。これらは、園内研修会で互いに保育を見合っ、話し合う中で資質・教養を深めていくことができた。自ら振り返った後、さらに事例研修を行い、PDCAサイクルを循環させていくことで、保育の質や心の動きに対する環境構成・援助の仕方の向上に繋がると考える。

6. 今後の課題

職員同士で心の動きや変化、それに対する環境構成の仕方について話し合ってきた。昨年度の課題としていた研修時間を確保することについては、乳幼児の代表同士で話をして作業の効率化を図ったことで、全体での会議や研究主題の進め方に活かされた。今回の研究で得た「心の動きの見取り方」についての学びを、園内研修会や会議の中で意識しながら用いることで今後も子どもの環境構成と援助の在り方について理解を深め共有していきたい。

